

**特別史跡名古屋城跡保存活用計画（案）に対する
市民意見の内容及び市の考え方**

平成30年5月

名 古 屋 市

特別史跡名古屋城跡保存活用計画（案）パブリックコメント実施結果

「特別史跡名古屋城跡保存活用計画（案）」に対し、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。いただきましたご意見の概要と、それに対する市の考え方を公表いたします。

なお、ご意見の内容は、趣旨の類似するものをまとめているほか、原文を一部要約するとともに、項目別に分類して掲載していますのでご了承ください。

1 実施期間

平成30年1月16日（火）から平成30年2月15日（木）まで（31日間）

2 提出状況

（1）意見提出者数 173名

（2）意見総数 227件

提出方法	持参	郵送	ファックス	電子メール	合計
人数	6名	40名	86名	41名	173名
件数	9件	50件	90件	78件	227件

3 意見の内訳

項目	意見数
1 計画全体に関する意見	6件
2 特別史跡名古屋城跡の保存に関する意見	3件
3 特別史跡名古屋城跡の活用に関する意見	17件
4 特別史跡名古屋城跡の整備に関する意見	196件
（1）天守閣整備全体に関する意見	10件
（2）天守閣木造復元に肯定的な意見	9件
（3）天守閣木造復元に否定的な意見	140件
（4）天守閣整備におけるバリアフリーに関する意見	27件
（5）上記以外の整備に関する意見	10件
5 特別史跡名古屋城跡の運営・体制に関する意見	3件
6 その他の意見	2件
合計	227件

1 計画全体に関する意見

【市民意見の概要】

- 特別史跡名古屋城跡全体整備計画は、しかるべき手順を踏んで策定されたものであるから、それを置き換える為には合理的な理由を明確にし、しかるべき手順を踏んでいる必要がある。
- 計画自体が専門的過ぎて、市民には理解しにくい。
- 特別史跡名古屋城跡の本質的価値について、天守が戦災により焼失してしまったという事実や、鉄骨鉄筋コンクリート造の天守閣が再建されたということを踏まえていないため、「本質」とは言えないのではないか。
- 特別史跡名古屋城跡の保存活用について、名古屋城跡を近世城郭の姿で残すのではなく、記憶や記録、映像で残すなど、現代の市民の立場で考えてほしい。復元整備によって「世界に誇れる日本一の近世城郭を目指す」とは、名古屋市が「名古屋城」というテーマパークを税金で作ри、行政自らが観光事業に乗り出す宣言と捉えられる。
- 長期計画に基づく保存、活用の計画は、概ね良いと思う。全体計画に沿って少しずつやらざるを得ないと思う。

【市の考え方】

本計画は、整備だけでなく、保存・活用・整備・運営体制の各観点から現状及び課題を整理し、各々の方針を示すものであり、既存の特別史跡名古屋城跡全体整備計画の内容を包括する計画となります。本計画では、特別史跡指定説明文等に基づき、特別史跡名古屋城跡の本質的価値と構成要素を整理し明示しております。

なお、本計画は、有識者で構成する特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議から意見を聴取しながら策定を進めてまいりました。今後、本計画に示す方針に基づき事業を着実に進めるとともに、市民の皆さまにわかりやすい説明に努めてまいりたいと考えております。

2 特別史跡名古屋城跡の保存に関する意見

【市民意見の概要】

- 植栽管理はしっかりと行うべきであり、石垣や堀の顕在化を妨げている草本類を除草するという記述は評価する。水堀西側石垣に木が生えており、小天守閣や西南隅櫓も樹木で見えにくくなっているため適切な植栽管理が必要である。
- 二之丸と三之丸まで特別史跡指定地を拡張することの重要性に共感した。そのためには、特別史跡指定の弊害の一つと考えられる愛知県体育館移設に関しては積極的に折衝していくことが大切だと考える。

【市の考え方】

本計画で定める植栽管理方針に基づき、特別史跡名古屋城跡の風致の維持向上に寄与し、城郭としての風格を形成する植栽となるよう植栽管理を行ってまいりたいと考えております。

また、特別史跡指定地外の現存遺構等を適切に保存していくため、特別史跡未告示区域の解消や特別史跡の追加指定に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

3 特別史跡名古屋城跡の活用に関する意見

【市民意見の概要】

- 清正の石引き像や季節の花、石垣など、名古屋城には天守閣以外にも魅力が多いと思うが、ほとんどの人がその魅力に気づかずに素通りしていることをいつも残念に思うので知ってほしい。
- 来場者の確保のため致し方ない面もあるかと思うが、おもてなし武将隊や忍者隊などによる催し、食べ歩きができる屋台など、来場者に不快を与えていることもある。本来の目的である史跡の保存や教育・生涯学習を目的とした活動が、市民や来場者の目に触れないというようなことは避けなければならないと思う。今どのような保存に係る活動をしているかを、市民に知らせる活動も必要だと思う。また、史跡としての価値についてはできる限り調査し、それを多くの方にお知らせするのが良いと思う。
- 小学生向けの名古屋城のチラシを作って、市内の学校で配布してもらってはどうか。また、名古屋城の歴史の漫画本も作ってほしい。市民が気楽に読めるような本も必要だと思う。
- 写真写りが良いビュースポットをパンフレットへ記載するなど、名古屋城観覧のおすすめポイントやおすすめルートがわかると嬉しい。また、三之丸や城外にまで及んだ観覧ルートを新設するなど、名古屋城の縄張りが理解できる観覧ルートの整備を図ってほしい。
- より多くの方に気軽に近くで見て、触れてもらうことを取り入れなくては、身近なお城から遠ざかってしまうと思う。おもてなし武将隊を始め、ソフト面での面白さ、楽しさをさらに増強する必要がある。石垣の解説ツアーを今より増やし、安全に調査修復現場を見学できるようにすれば、歴史好きの方をもっと名古屋城に呼び込むことができると思う。
- 重要文化財である各隅櫓等を開放するなど、既存の建物をさらに活用して魅力向上を目指すべきである。
- 名古屋城や展示のガイドを名古屋市の学芸員を目指す大学生にやってもらってはどうか。
- 三之丸も含めて櫓や門、城下町にあった主な家臣の邸宅跡地など、全ての建造物跡に説明板を設置してほしい。本丸表門枳形内には、名古屋城全体の図面、築城時における丁場割や刻名石についての説明板を設置するとともに、現在の天守台石垣の東面の変色した部分は戦災の被災箇所として残し、説明板を設置してほしい。二之丸にある旧那古野古城の石碑は読めないため、新しく大きな看板を立ててほしい。
- 西の丸展示場には、視覚障害者が触れることのできるモデル（本丸御殿、天守、二之丸の建物群など）を作ってはどうか。
- 名古屋城に展示施設ができるのは嬉しい。有料空間の外につくってみてもおもしろいかと思う。愛知県体育館が名城公園内に移転したら、現愛知県体育館へ博物館機能を移転して、将来、名古屋城博物館ができるまで使用してはどうか。
- 名古屋城は尾張徳川家の城郭であったことから、公益財団法人徳川黎明会運営の徳川美術館所蔵の品々をレンタル契約等によって、名古屋城内に展示することを検討してほしい。テーマ毎に合った展示内容の転換が図れ、観光客のリピート需要を見込むこ

ともできると思う。

- 江戸時代の名古屋城全景をCGで作成し、パンフレットにして無料配布やウェブサイトで公開してほしい。また、二之丸、二之丸の能舞台、西之丸、御深井丸、茶席、埋門を含めて往時の姿を映像で見ることができるようにしてほしい。名古屋城ガイドブックも作ってみてはどうか。
- 適当な場所に休憩所や食事処があることは快適に名古屋城の観覧を楽しむためには必要である。一方で、トイレが旧態依然としていることが残念である。清潔感のあるトイレは、今後増える来場者への最低限のおもてなしになると思う。
- 名古屋城と熱田神宮の観光面での繋がりや堀川を利用する方法を考え、水質浄化や川沿いの魅力向上を図るべきである。また、スマートフォンで名古屋市内の史跡をGPS機能で探せるアプリを出してほしい。
- 他城郭と連携し、名古屋城を始め昇龍道プロジェクトに含まれている城の世界遺産登録を目指すべきである。
- 入場料徴収場所を変えてはどうか。
- 自家用車・バス駐車場を新設してほしい。また、名古屋駅・名古屋城間の地下鉄の新設や名古屋駅と空港間のシャトルバスを新設してほしい。

【市の考え方】

名古屋城の往時の姿と歴史的価値、魅力を正確にわかりやすく伝えるため、城内の現存遺構や失われた建造物などの説明板等の充実に努めてまいります。また、名古屋城の価値、見どころ、現在取り組んでいる事業、調査研究の成果等の情報を多様な手法や媒体を活用して幅広い世代へ積極的に発信してまいりたいと考えております。

往時の姿を現在に伝える石垣や建造物等の現存遺構の公開を積極的に行うために、適切な維持管理による眺望確保や顕在化を行うとともに、隅櫓等の現存建造物の内部公開期間の拡大や観覧環境の充実に努めてまいります。

名古屋城の広大な全体像を伝えることができるように、無料区域も含んだ特別史跡名古屋城跡全体の観覧ルートの設定を行い、観覧時の情報の充実に努めるとともに、次世代を担う子ども達が、名古屋城の価値、歴史を理解しやすい配布物を作成し、子ども達の名古屋城への愛着を育てまいりたいと考えております。ご意見を踏まえ、第7章 7-2-4 情報発信を修正しました。

名古屋城や遺構の理解を深めていただくため、遺構を活用したイベントや整備現場の見学会、体験型の企画などの開催に努めてまいります。また、特別史跡名古屋城跡の活用の幅を広げていくため市民やボランティアなど多様な主体の力を活用するとともに、広域的に名古屋城の歴史を伝えていくために名古屋城に関連する歴史的資産との連携を更に強化してまいりたいと考えております。

展示、便益施設、アクセスに関するご意見に関しては、今後の参考にさせていただきます。

4 特別史跡名古屋城跡の整備に関する意見

（１）天守閣整備全体に関する意見

【市民意見の概要】

- 市民の理解と復元への盛り上がりが必要だと思う。
- 幼稚園、保育園の増設、他の文化施設（博物館等）への予算を増やした上で、建て替えは時間をかけてやればよい。
- 創設時そのままの復元を厳密に目指しては、耐震基準がクリアできないので、木造建築への耐震強化策がとられるのであれば、それは必要な改変である。
- 資金計画、バリアフリー対策、入場者計画、耐火・耐震などもきちんと示した上で、木造復元と耐震改修・長寿命化をきちんと比較すべき。
- 本丸御殿復元時と同様に来場者が工事の進捗状況を見学できるような方策を講じ、ウェブサイトで進捗状況をライブ発信すること。
- オリジナルが残っている石垣の修復をしっかりとやってから建て替えをすべき。
- 工事の流れ・手法については、更に細かい説明や理解が必要な事項だと考える。
- 旧天守の礎石で戻せる石は天守台下へ戻す。
- すべて国産材に限定した方がよいと思う。
- 現天守閣についての展示コーナーを設けて、ケーソン工法も分かるミニチュアを展示し、解説板を設置してほしい。
- 現存 12 天守（不可能ならば、国宝 5 天守）と名古屋城天守の同一縮尺の模型を展示し、比較観賞できるようにしてほしい。
- 天守閣内の空間を利用して現天守閣と同様に博物館機能を持たせること。特に、現天守閣にある「本丸御殿ミニチュア」及び「名古屋城の縄張模型」を常設展示すること。
- 日本城郭協会が選定した日本 100 名城、続日本 100 名城へ金シャチ募金リーフレットを送り、日本全国城好きから募金を募る。金シャチ手形により市内飲食店でサービスを受けられるようにする。
- 大天守閣 1 階入口部分の屋根には、織田信長が築城した安土城の完全復元した金箔瓦を置いて、大天守閣入場時の目玉とする。
- 天守閣解体後、銅瓦を一般に販売して建設費の一部にする。天守閣木造再建中の材木置場について、城北側濠（水堀）を利用してほしい。
- 木造のミニチュアを作ってみてはいかが。

【市の考え方】

木造復元を行う意義や木造復元に関する検討状況等の情報を市民の皆さまに丁寧に伝えていくことに努めるとともに、木造復元に関するイベントや PR を積極的に実施し、更なる機運醸成に努めてまいりたいと考えております。

木造復元工事にあたっては、素屋根内に見学通路を設け、復元過程や伝統工法を間近で見ていただくとともに、映像記録も作成し活用してまいりたいと考えております。

天守台石垣につきましては、適切に保全していくために詳細な調査等に基づいて保全方針を定め、たうえで対策を実施してまいりたいと考えております。

天守閣に関する展示、募金についてのご意見は、今後の参考にさせていただきます。

(2) 天守閣木造復元に肯定的な意見

【市民意見の概要】

- 天守閣木造復元の早期実現を要望する。耐久・耐震・防火防災対策に配慮し、来館者利便優先で、本来の姿への影響は最小限に抑えることを要望する。
- 木造化による復元に賛同する。復元は意味がある事で、大工の方の技術継承としても意味がある事だと思う。
- 現天守閣は博物館としての役割を果たしているものと思われるが、我が国の優れた築城技術などを実物大で体感することはできないものと思われる。
- 天守閣の木造復元に賛成する。耐震構造のしっかりとした天守閣へのいち早い建て替えを望む。
- 現存する豊富な資料に基づいた、往時の姿を見ることができる歴史的価値のある木造天守閣の復元を願っている。
- 木造復元では、近代的設備は、空調や防犯・防災など必要最小限にとどめ、エレベーターなどは設置すべきではない。本物の名古屋城を造っていただきたい。
- 元来の姿である木造にすることは、景観も良くなり、賢明だと思う。
- 現天守閣は、中身が博物館のようで誇りをあまり感じられない。
- 現天守閣は、消滅させるには忍びがたい感慨があるが、割り切らなくてはならないとも思う。

【市の考え方】

天守閣木造復元は、復元に耐えうる根拠資料に基づき、外観だけでなく内部空間も含めたより真実性の高い復元を行うこととて、往時の名古屋城天守の姿が再現され、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解を促進していくことができると考えております。

防火、避難の安全性については、シュミレーション等による検証を重ねたうえで、第三者機関の評定を受けることにより現行法同等以上の安全性を確保いたします。地震対策としては、構造計画において、建物の安全率及び地震時における建物の変形量の上限值、地盤調査による地震波の作成及びその地震波を用いた構造の動的解析も参考に、耐震補強方針を定め実施してまいります。

現天守閣に関しましては、再建に至る経緯や歴史的背景、採用された建築技術、活用実績等をまとめ、映像等とともに記録・保存を行い、展示等により現天守閣が持っている価値を広く発信するとともに後世に継承してまいりたいと考えております。

また、木造復元工事の際には、工事過程を映像に記録し、ウェブサイトや講演会など様々な媒体を通じて情報発信を行い、伝統工法による大規模木造建築の魅力を伝えるとともに伝統的技術の継承に役立ててまいりたいと考えております。

(3) 天守閣木造復元に否定的な意見

【市民意見の概要】

- 木造にしても所詮、本物ではない。天守閣の木造再建では、現天守閣を支えるケーソン上に建てることになるので、木造化しても復元とは言えない。石垣から直接建てるべきではないか。天守閣の木造復元は現実的でなく、そもそも歴史に忠実な復元はできないので、完全復元できないのならやめるべき。

- 現天守閣は市民の多数の寄付によって再建したものであり、安易に解体することに反対。現天守閣は二度と戦争をしてはいけないという人類の経験と知恵のあかしであり、戦災復興のシンボルである。また、博物館機能を備えた優れた建物であるため、これを壊してまで木製レプリカ城を作るべきではない。
- 今のお城で十分立派。今あるものを大事にするという事を子供達に教えていきたい。古き良き物を時代に順応させて残していくものだと思うし、現天守閣の方が安全で魅力的であり、歴史的価値が高いので大切に残すべき。
- 天守の建て替えは、壊れたときよいのではないか。なぜ今なのか。
- 今の鉄筋天守閣を耐震化長寿命化とともに補強をすれば何十年も持つので、2006年の全体整備計画に基づいて名古屋城の保存整備を進めればいいと思う。本格的改修と補強工事が行われることで展示スペース、安全な通行スペースの確保も行いながら、保存活用計画に記載されている問題点の克服をすることこそ保存計画にふさわしいと考える。天守について大切なことは外観、堅牢であり、現代ではそれに安全、バリアフリーが加わるが、現天守閣は補強すれば外観、堅牢、安全、バリアフリーすべてをクリアできる。
- 現天守閣の耐震改修及び博物館刷新に賛成。
- 市民から愛され、気軽に訪れやすい計画に見直すべき。
- 市民2万人アンケートでの、耐震改修しても40年しかもたないという説明は完全に誤った情報である。充分議論を尽くしてほしい。16区すべてで市民向け説明会を開き、しっかり市民の声を聞いてほしい。市の耐震方針は生きているのを伏せて、まるで不可のように宣伝しているのは作為である。
- 改めて見た目が同じものを作る意味が不明。
- 壊す必要のないものを壊すのにたくさんのお金がかかる。市民の為の大切な税金は天守閣の木造化より、教育・福祉等に使ってほしい。市の公共施設は老朽化しているし、崩れたままの石垣の修理や草が繁茂している名古屋城周囲の整備など先にやることはいっぱいある。必要とされる工事費について、子孫に借金のツケを残さないでほしい。
- 改築費には税金を使わず入場料で賄うと言うが、もし見込み違いが生じた場合、将来の市民負担が避けられなくなる。木造化すれば入場者数が増えて、大幅に収入が増えるというのは絶対に嘘で無理だ。木製天守閣は観光の目玉どころか建設費の元も取れず、維持費に巨額の市民税を未来永劫に投入せざるを得ない。
- 現天守閣も、最上階の窓の形や非常階段部分を除けば、外観は戦災焼失前の姿を模しているのだから、外観に関しては最上階の窓を変えるだけ良い。木造にこだわるなら内装のみでよい。
- 誰もが訪れることができる誇りある名古屋城とすることを求める。今以上に身体障害者が入りにくくなること、エレベーターのことなどを考えると現天守閣の方が良いと思う。
- 希望者は、全員天守に登れるような計画にすべきであるが、現状の木造天守閣では容積的にそれが不可能である。
- 文化財として後世に残す主旨がわかりにくいいため、単なる人呼びの観光地になってしまっただけではないか。
- 木造復元はケーソンを用いた現天守閣をいじることで石垣を傷める。

- 本丸御殿は見学についての規制が多く、ぴりぴりしながら見学したが、現天守閣は子ども達が楽しんでいた。
- 建物を自慢するより、市民が住みたくなるような街づくりに力を注いでほしい。
- 木造6階の天守閣の建造は、建築基準法など各種の法律等の点から問題があり、莫大な費用もかかる。
- 消費税率が上がる前になると、駆け込み需要で物資も輸送も足らなくなり、工期が延びるに決まっているし、材料の価格も上昇するから、500億と決めていても、それも無理になると思う。
- 森林資源を大量に消費する天守閣木造化を行えば環境保全に逆行する。
- どうしても天守閣を木造にしたいなら、国内で被災の傷跡が無くなり、原発事故による離散者が全員福島で順調な生活に戻れるまで、そして国内の生活困難者が1人もいなくなるまで時期を遅らせろ。
- 木造復元しなくてもCGで見ればよい。
- 観光客は、決して本物など求めている。観光客が求めるものは、雰囲気、そしてエンターテインメント性だろうから、天守閣も現状のコンクリートレプリカで十分ではないか。文化財保護と観光発展とのバランスをとることが、行政には求められていると思うので、中途半端なレプリカ木造天守閣を建てて石垣に負担をかけるより、現行のケーソンに支えられたコンクリート天守閣を耐震保守して、石垣の調査、修復の方に時間とお金をかけ、きちんとやっていくことが肝心ではないか。
- 観光施設としてちゃんとしたトイレや水道、電気なども整備しないとイケないが、歴史に忠実な木造復元ではできない。
- 天守閣の地下にケーソンが埋まっているけれど調査もせず、どうして木造復元を進めるのか。
- 木造には、全く優位性がみられない。
- 昔の様な材木が手に入らないと思うので、木造化反対。
- 内部空間と間取りの復元は、観光客や市民が名古屋城に親しむために必要か。柱が並ぶだけの大きな空間は観光施設、文化施設としては使えないのではないか。
- 今作ったとしても現代建築物としての価値となってしまう。天守そのものは、望楼と権威の象徴としての役割だと思うので、木造であってもそれほど見て価値を感じない。
- 来場者の半数しか木造天守閣に登れない計画は不適當。

【市の考え方】

木造復元は、特別史跡内の建造物として本質的価値の理解を促進するという点において優位性が高く、また、現天守閣が有する価値の保存・継承等、木造復元における様々な課題も克服することが可能であると考えており、今後も木造復元の意義や木造復元の検討状況等の情報を市民の皆さまに丁寧に伝えながら、木造復元の事業を進めてまいりたいと考えております。

(4) 天守閣整備におけるバリアフリーに関する意見

【市民意見の概要】

- この時代にあった誰もが楽しめるユニバーサルな工夫が必要ではないか。誰もが気軽に名古屋城に足を運べるバリアフリー設備が必須だと考える。
- 新設の建物は、ユニバーサルデザインを要求されるが、史実に忠実な復元なので、何度も検討されたら良いと思う。
- バリアフリーに関しての具体的な記述があまり見受けられないように感じる。
- バリアフリー法に基づけば、新設・改良時のバリアフリー化が求められるはず。エレベーター無き公共建物はバリアフリー法違反。
- 福祉都市環境整備指針及び障害を理由とする差別の解消の推進に関する名古屋市長職員対応要領に反し、福祉都市環境整備指針を活かしたものにする立場をとっていない。障害者権利条約、障害者基本法、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の各法律に違反している。
- 寸分違わぬ木造再建にこだわって大型エレベーターの設置を断念するなど、バリアフリーをないがしろにすることは許されない。ましてや、障害者を人力で背負い階段を登るとか、ドローンを活用するなどの話が飛び出すような木造再建は考え物である。エレベーターの設置は義務だろうし、障害者や老若男女が楽に上がったり回れることが大事。
- 合理的配慮からみても、バリアフリーに関することを明記すべきだが、史実に忠実に木造復元するとなれば、バリアフリー化するのはかなり難しいと思う。
- バリアフリー化するなら、目立たない部分に扉をつけ、そこから通路を整備して、別途エレベーターで各階に上られるようにした方がよいと思う。
- チェアリフトをつけたら、ますます階段の幅が狭くなるし、乗ることができない方もいる。チェアリフトは来場者の動線を考えると困難を伴うし、利用者が多数いる場合は、乗り換えや昇降でかなり時間を要する。
- 人により違うので、片方に手すりがあればよいというものでもない。
- 全ての障害者がエレベーターに乗れるようにすることは、物理的に無理があるかもしれないが、出来る限りその努力をする事は無駄ではないはず。
- 正確に復元できると謳う名古屋城が、安易にバリアフリーに迎合することは、言っていることとやっていることが矛盾しているのではないか。名古屋城は特に正確に復元できる城であるにもかかわらず、障害者の意見を重視した観光復元は歴史を冒瀆することになるのではないか。
- エレベーターを付けない代わりに、他の隅櫓と同様の運用（基本的に入場不可）とすることも検討してほしい。
- 年に4回ほど特別な日（繁忙期は除く）を設けて、その日に向けて設置、解体可能なリフト（エレベーター）を設置して、障害者に来てもらうといった方法ではいかがか。
- 障害者など、実際に利用する側の意見を聞く機会をつくり、意見を設計に取り入れてほしい。
- 障害があることを理由に、障害のない方とは違う観覧ルールや観覧ルートを作らないでほしい。
- エレベーターは設置せずに代替手段（人によるソフト対応、椅子式の階段昇降機等）を検討していると報道等で聞いているが、重量のある電動車椅子を人の力で最上階まで運ぶのは現実的か。

- 準備してある手動車椅子に乗り換えるのは無理だし、椅子式の階段昇降機に座るのも、座位を保てないのでできない。
- 身体障害者は業者ボランティアが背負子で負ぶって上げるなどという安全性を無視したものはとんでもない。
- 昇降機の使用や介助スタッフによる介助は、入場者に「奇異の目」を向けさせることになり、「差別」や「こななければならないのに」と「排除」となることは明白であり、昇降機そのものが「社会的障壁」といえる。
- 4 人乗りエレベーターには電動車イスが乗れなさそうである。一部の市民を排除するようだ。史実に忠実に木造化した時のバリアフリー対策について、関係機関との連絡、検討を十分にしていきたい。
- 木造復元した天守閣は障害のない方でも登城することは大変難儀だが、困難を克服して登城できた達成感、天守閣の窓から見た名古屋の景観は素晴らしいものとなるだろう。
- 現天守閣は、バリアフリー対策のため外付けエレベーターを後でつけた。木造天守閣になってもバリアフリー対策は必須である。
- 木造では、耐震的にエレベーターの設置は難しいと思うし、チェアリフトも来場者の動線を考えると困難を伴うので、高齢者や身体の不自由な方には申し訳ないが、第三の方法を考えてはいかがか。
- 現在は、CG、AI の機能を持った優れた技術があるので、昇降等が困難であっても内部空間や眺望を味わっていただける環境を提供してはいかがか。

【市の考え方】

真実性が高い木造復元とバリアフリーという課題に関しては、昇降・移動の困難な方への対応をいかに行うかをしっかりと検討し、ハード・ソフト両面から対応を行ってまいりたいと考えております。また、年齢や障害の有無、言語の違いなどに関わらず、多くの方が楽しめる観覧環境を整えるため、適切な説明板・案内板、多言語対応のパンフレットや音声ガイドの設置、案内スタッフの配置など、来場者の円滑な観覧を促すようユニバーサルデザインを検討してまいりたいと考えております。

また、木造復元天守閣の内部空間や眺望を体験できる方策の1つとしてVR等の活用検討も行なってまいりたいと考えております。

いただきましたバリアフリーに関するご意見は、今後の参考とさせていただきます。

（５）上記以外の整備に関する意見

【市民意見の概要】

- 東北隅櫓や多聞櫓、本丸大手馬出などを復元してほしい。可能な限り江戸時代の名古屋城の姿に近づけてほしい。
- 復元する建造物は、米俵や武具や馬など、なるべく本来に使われていた空間を再現してほしい。
- 本丸御殿は、可能な限り、創建当時の工法や材料が用いられるなど当時の豪華絢爛な姿が復元され、文化的価値があると思う。
- 建造物を復元しすぎることによって観覧者に見方を強要することは想像力を失わせ、望ましくないと思うし、経費もかかる。「復元」という行為は、その切り取られた時代の一瞬を示すものであり、軽々しく行うものではない。
- 歴史的に貴重な遺跡を後世に残すことも続けてほしい。例えば、二之丸東の南蛮練堀

は、私が最初に見た時より随分劣化が進んでいるので、劣化を止める、あるいは遅らせる対策が早い時期に必要だと思う。

○本丸北東の石垣工事はいつ終わるのか。

○愛知県体育館の場所は、かつての馬場部分で史跡的価値は高くないため、改修でいいと思う。

○熊本城復興終了まで多聞櫓や土塀は建造しない。

【市の考え方】

名古屋城の歴史的価値を後世に確実に継承するため、現存遺構等の適切な保存管理、修復を行ってまいります。また、往時の名古屋城の姿を実感させ、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解を促進させるため、失われた石垣・土塁・堀・建造物等の復元整備等を検討してまいります。なお、復元等の検討にあたっては、遺構等の保存に影響を及ぼさないことを大前提に、調査研究成果に基づいて検討を進めてまいりたいと考えております。

5 特別史跡名古屋城跡の運営・体制に関する意見

【市民意見の概要】

○なぜ民間活力を導入することが効果的なのか全く説明されていない。

○費用対効果のある観光プロモーションを展開すべき。

○学芸員やボランティアガイドをもっと増やすのは大いに賛成。専門的な教育を受けた若い方に、長期にわたって名古屋城に携わっていただけると、名古屋城の強力な武器になる。

【市の考え方】

発掘調査や史資料調査等の十分な調査研究成果に基づき、特別史跡名古屋城跡の保存・活用を進めるために、専門的知識を持った学芸員を確保し、専門的・総合的に調査研究を行うことができる体制を構築してまいりたいと考えております。

また、保存・活用の幅を広げるため、市民、ボランティア、NPO法人、地域活動団体、企業等の多様な力を活用し、連携を図りながら、特別史跡の保存・活用を進めてまいりたいと考えております。

名古屋城の運営・体制につきましては、効率化と魅力の一層の向上を図るため、今後様々な民間活力導入の効果や課題を総合的に検証し、特別史跡名古屋城跡の運営・体制としての望ましいあり方を検討してまいりたいと考えております。

6 その他の意見

【市民意見の概要】

○保存活用計画は、有識者会議各部会の承認を取ってから再度出し直すべき。

○団原古墳の石室は、歴史の里志段味古墳群か名古屋市博物館へ移動して展示する。

【市の考え方】

本計画の策定は、有識者で構成する特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議から意見等を聴取しながら策定してまいりました。

団原古墳の石室に関するご意見は、今後の参考にさせていただきます。